

研究論文

小学校教育実習生における発達障害に関する知識と実践力に関する実態調査

日高 茂暢* ・ 大野 愛哉** ・ 芳野 正昭* ・ 松山 郁夫***
石井 宏祐**** ・ 松信 尚子**** ・ 和久屋 寛**** ・ 小野 文慈*

Trainee Teachers' Knowledge and Practical Skills of Developmental Disorders at Elementary School.

Motonobu HIDAKA, Aikana OHNO, Masaaki YOSHINO, Ikuo MATSUYAMA,
Kosuke ISHII, Naoko MATSUNOBU, Hiroshi WAKUYA, and Bunji ONO

【要約】小学校教育実習を履修した学生を対象に、特別支援教育への関心や発達障害に関する知識、実践的知識について調べた。その結果、調査参加者の56%が特別支援学校教諭免許状の取得を希望していること、58%が教育実習中に発達障害児の対応をしたことが明らかになった。さらに発達障害の基礎知識について特別支援学校教諭免許状を希望する学生は、希望しない学生よりも有意に高い理解度であることが示された。今後、免許状の非希望者を含めた学生全体の知識や実践力向上のための授業改善が必要であることが示唆された。

【キーワード】特別支援教育、発達障害、通常学級、教員養成課程、教育実習

1. 問題

2022年に文部科学省が実施した「令和4年度通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」では、発達障害の可能性のある児童生徒の在籍する推定値が8.8%と過去最高となった(文部科学省, 2022)。この調査結果から、発達障害特性によって学習または行動に困難を示す児童生徒は、通常学級を1学級35人と想定すると約3人在籍している見積りとなる。

また義務教育ではない高等学校でも2018(平成30)年度から通級による指導が始まり、2024(令和6)年度から改正障害者差別解消法によって私立学校でも合理的配慮の法的義務化が進む等、いずれの校種の教諭であっても、特別支援教育に関する理解や発達障害に関する知識と指導力は必須となっている。

このような社会動向を踏まえ、教員養成課程においても、2019(平成31)年度から教育の基礎的理解に関する科目のなかで「特別の支援を必要と

する幼児、児童及び生徒に対する理解」が必修化された。しかし、上記必修科目は1単位以上の履修と最低限度にとどめられ、各大学の状況に合わせた運用がなされている。さらに多くの場合、「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に関する科目は、特別支援教育を総論的に扱うため、学生の通常学級における発達障害の理解と支援に関する理解促進において実効性が低い課題がある。

2. 目的

通常学級に在籍する発達障害特性のある児童生徒の指導・支援について、新卒教員も一定程度の知識・対応力が必要とされている。本研究では、教育実習を経験した大学生を対象に、佐賀大学教育学部が開講する教員養成カリキュラムがどの程度の発達障害に関する知識と実践力を育成しているかを明らかにすることを目的とした。

*佐賀大学教育学部 **九州大学基幹教育院

鎮西学院大学総合社会学部 *佐賀大学教育学部附属教育実践総合センター

3. 方法

調査対象：佐賀大学教育学部が開講する教職課程履修者で、小学校教育実習（4 週間）を履修した学生を対象とした。回答者は 119 名で、すべて教育学部生であった。回答者の属性として所属専攻は、幼小発達教育専攻 21 名（17.6%）、特別支援教育専攻 8 名（6.7%）、初等教育専攻 64 名（53.8%）、中等教育専攻 26 名（21.9%）であった。

調査方法：Microsoft Forms でアンケートを作成し、20XX 年 10 月 25 日～11 月 1 日に実施した。

調査手続き：

質問内容

- (1) フェイスシート 所属専攻, 学年を尋ねた。
- (2) 特別支援学校教諭免許状取得状況 免許の取得希望と免許取得の理由について尋ねた。
- (3) 教育実習での体験 発達障害特性の（疑いの）ある児童の担当の有無, 当該児童に実施した指導や支援の内容, 対応に苦慮したことを自由記述で求めた。また担当した学生を対象に, 大学の講義が発達障害特性の（疑いの）ある児童の理解や支援に役立ったかを 4 件法で回答を求めた。

(4) 発達障害に関する基礎知識と実践的知識 先行研究（福島・清水, 2016）が実施した発達障害に関する質問を実施した。基礎知識を問う 2 択式 10 問の質問は, 菊池（2011）をもとに作成されたもので発達障害の特性や困難について正しい回答を選択する。実践的知識を問う 3 問の自由記述の質問は, 福島らが作成したもので短い事例エピソードへの対応を回答させ, 適切な対応に加点方式で得点を与えるものである。本研究では, 実践的知識について点数化はせず, 回答をカテゴリ化し質的に分析した。

分析方法：数量化可能な回答について記述統計および t 検定や分散分析を適宜行った。推測統計には統計ソフト jamovi（R Core Team, 2021; The jamovi project, 2023）を用いた。また自由記述回答には, KJ 法をもちいて分析した。

倫理的配慮：本研究の目的, 回答は無記名で収集し結果の公表において個人が特定されないよう配

慮すること, 回答内容が教育実習等の成績評価に利用されないこと, 調査結果は教員養成カリキュラムの改善および調査研究に利用されること等を説明した。回答の提出をもって同意とした。

4. 結果

(1) 特別支援学校教諭免許状取得状況

特別支援学校教諭免許状を取得するために履修計画を立てている回答者は, 119 人中 67 名（56.3%）だった。専攻毎に取得希望者を分類すると, 初等教育専攻の学生が 42 人と回答者全 119 名のうち 35.3%を占めることが明らかになった。専攻毎の結果を表 1 にまとめた。専攻内の特別支援学校教諭免許の希望率は, 幼小発達教育専攻 57.1%, 特別支援教育専攻 100.0%, 初等教育専攻 65.6%, 中等教育専攻 19.2%であった。特別支援学校教諭免許の取得が卒業要件である特別支援教育専攻を除くと, 初等教育専攻および幼小発達教育専攻に免許希望者がそれぞれ 50%を超えることが明らかになった。

表 1. 特別支援学校教諭免許の取得状況

	学部を母数とした希望割合	各専攻を母数とした希望割合
学部 (N=119)	56.3%	
幼小 (n=21)	10.1%	57.1%
特支 (n=8)	6.7%	100%
初等 (n=64)	35.3%	65.6%
中等 (n=26)	4.2%	19.2%

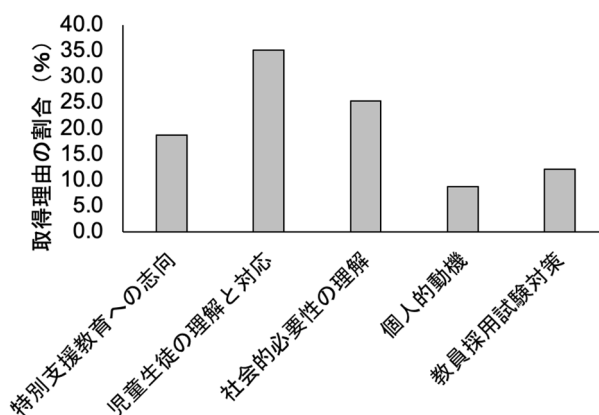


図 1. 特別支援学校教諭免許状の取得理由 (n=91)

さらに、取得理由に関する自由記述回答 67 件(二重分類含め 91 件) をカテゴリ化したところ、5 つのカテゴリに分類できた(図 1)。回答のカテゴリとその回答割合は、①「特別支援教育への志向(特別支援学校教諭を志望している、障害のある子どもに関わりたい等)」が 18.7%，②「児童生徒の理解と対応(多様なニーズのある子どもを理解するため、障害のある子どもに適切な支援をするため等)」が 35.2%，③「必要性の理解(インクルーシブ教育が求められているから、通常学級にも発達障害の子どもが増えているから等)」が 25.3%，④「個人的動機(家族関係、多くの資格取得を目指している等)」が 8.8%，⑤「教員採用試験対策(加点制度があるから等)」が 12.1%であった。

(2) 教育実習での体験と大学での学びの有効性

教育実習において、発達障害特性のある児童(疑いを含む)を担当した割合は、119 人中 69 人、58%であった(図 2)。

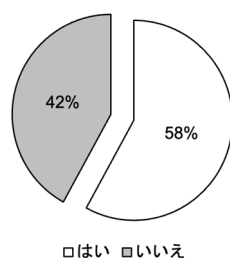


図 2. 発達障害特性のある（疑いを含む）児童を担当した教育実習生の割合（ $n = 69$ ）

さらに発達障害特性の（疑いの）ある児童を担当した学生 69 人を対象に、大学の講義の有用性について回答を求めた結果を図 3 にまとめた。

「子どもの障害理解」について、大学の講義が「参考になった」、「とても参考になった」とポジティブな回答をした学生は 62 人、89.8%であった。同様に「子どもの気持ち理解」については 92.7%，「子どもへの対応の仕方」については 89.8%が有用だったと回答した。

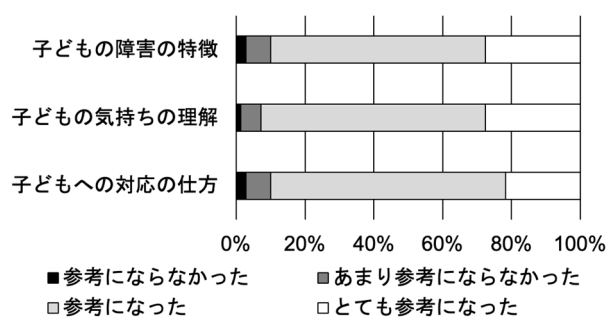


図 3. 大学の講義の有用性（ $n = 69$ ）

(3) 発達障害に関する基礎知識

福島・清水（2016）による発達障害に関する基礎知識を問う 10 問の問題の結果は以下の通りであった(表 2)。学部全体の平均は 6.43 点であり、福島らのデータである 5.74 点より高い結果であった。また特別支援学校教諭免許状の希望の有無で分類すると、免許状希望者は 6.99 点、非希望者は 5.71 点であった。等分散を仮定しないウェルチの t 検定で比較したところ、免許状希望者は非希望者よりも有意に得点が高いことが示された($t(109) = -3.28, p < .001, \text{Cohen's } d = -.62$)。

専攻別には、特別支援教育専攻が平均 7.75 点と最も高く、中等教育専攻が平均 6.08 点と最も低い結果となった。一要因分散分析を行ったところ、専攻の主効果が得られ($F(3, 29.6) = 4.14, p = .015$)、Games-Howell の多重比較を行った結果、特別支援教育専攻が初等教育専攻よりも有意に高い結果となった($p = .044$)。また有意傾向ながら、特別支援教育専攻は中等教育専攻よりも高い結果であった($p = .053$)。

次に、特別支援学校教諭免許状の非希望者がいない特別支援教育専攻を除外し、幼小発達教育専攻、初等教育専攻、中等教育専攻の 3 専攻について、専攻と免許状の希望を要因に分散分析を行った。その結果、専攻と免許状の希望に関する交互作用と専攻の主効果は認められず、免許状の希望のみ主効果が見られた($F(1, 52.88) = 15.46, p < .001$, 偏 $\eta^2 = .128$)。従って、専攻に関わらず、特別支援学校教諭免許状の希望者は非希望者よりも基礎知識に関する得点が高いことが示された。

表 2. 「発達障害の基礎知識（福島・清水，2016）」に対する専攻別の平均点（標準偏差）

	専攻全体	特別支援学校教諭免許状	
		希望者	非希望者
学部全体（ <i>N</i> = 119）	6.43（1.97）	6.99（1.98）	5.71（1.72）
幼小発達（ <i>n</i> = 21）	7.14（1.85）	8.17（1.27）	5.78（1.64）
特別支援（ <i>n</i> = 8）	7.75（1.28）	7.75（1.28）	－
初等教育（ <i>n</i> = 64）	6.17（1.85）	6.40（2.14）	5.73（1.55）
中等教育（ <i>n</i> = 26）	6.08（2.00）	7.80（.84）	5.67（1.98）

Note: 特別支援教育専攻は特別支援学校教諭免許状が卒業要件のため、非希望者は0名である。

（4）発達障害に関する実践的知識

1. 通常学級における自閉症児のパニック対応

自閉症のある子どもが通常学級でパニックを起こした時の対応として、回答を①クールダウンルーム等安心できる場所へ移動すること、②パニックが落ち着くまで安心できる声かけをすること、③落ち着いた段階で話を聞き原因を特定すること、④他の教職員の応援を頼み、複数人に対応すること、⑤周囲の子どもへの指示等の対応を行うこと、⑥家庭と連携し、パニック状態を避ける対処法を考えるといった6つのカテゴリに分類することができた。多くの回答で、6つのカテゴリを組み合わせた回答が見られ、複数の方法を用いて対処しようとする様子が見られた。

2. ADHD 児への授業や指示だしの配慮・工夫

ADHD の子どもへの関わり方について、①黒板周りを整理するなど集中できる環境の調整をする、②集中しやすいよう興味関心をひく授業準備をする、③授業時間を集中が続きやすい時間に小分けにする、④簡潔な指示やスモールステップの指示、視覚的補助、全体の指示に加えて個別の声かけをする等の指示の工夫、⑤その他といった5つのカテゴリに分類できた。ADHD のある子どもへの対応について「その他」カテゴリでは、「あまり相手にしない」、「目線を合わせて会話をする」等、ADHD への一般的な対応とは異なる回答が見られた。

3. アスペルガー症候群のある子どもが失言で友達を傷つけたときの指導

この質問に対して、①傷つけられた友人やクラ

スメイトにアスペルガー症候群の特徴について伝える、②アスペルガー症候群の子どもに相手を傷つけた事実やその理由、謝罪や今後の回避法等を教える、③アスペルガー症候群の子どもに相手の立場にたって考えるよう指導する、④お互いの話を聞き、気持ちのフォローをするといった4つのカテゴリに分類できた。アスペルガー症候群の子どもに対するソーシャルスキルトレーニング（SST）のような②のカテゴリが出現した一方、①の周囲の理解を求める指導や③の共感性を前提とした指導等、状況によっては効果的ではなくなる回答カテゴリも出現した。

5. 考察

（1）特別支援学校教諭免許状の取得状況について

本研究の結果、佐賀大学教育学部では、特別支援学校教諭免許状の取得を目指す学生が56.3%と全体の過半数を超えた。特別支援学校教諭免許状の取得が必修である特別支援教育専攻を除くと、幼小発達教育専攻と初等教育専攻の2専攻でも半数以上の学生が特別支援学校教諭免許状の取得を希望していることが分かった。この結果は教職課程を有する全国の国立大学のなかでも高い数値であり、佐賀大学教育学部の長所と言える。

免許の取得理由も、多様なニーズのある子どもを理解する力や対応力を身につけたいというものが多く、学生の特別支援教育に対する意欲の高さがうかがわれる。

一方、高等学校での通級指導が推進される等、中等教育での発達障害のある子どもへの対応が求

められている。そのような現状の中で中等教育専攻における特別支援学校教諭免許状の取得状況が20%を下回ったことは課題といえる。これから中等教育専攻の特別支援学校教諭免許状の取得状況を改善していくことが必要と考えられる。

(2) 教育実習における発達障害のある児童への対応と大学での学び

教育実習において、発達障害特性のある児童(疑いを含む)を担当した割合は58%であった。発達障害特性のある児童を担当した学生の約90%が、大学で学んだ「子どもの障害理解」、「子どもの気持ち理解」、「子どもへの対応の仕方」が役に立ったと回答していた。教育実習中の児童指導や授業の工夫は、受け入れ学級の指導教諭の指導や助言があつて適切に行われたと考えられるが、学生にとって大学で学んだ知識も参考になったと考えられる。

(3) 発達障害に関する基礎知識の理解度

発達障害に関する基礎知識の結果は、学部全体で平均6.43点であった。専攻にわけて分析すると特別支援教育専攻が他の専攻よりも平均点が高く、理解度が高い結果となった。

さらに幼小発達教育専攻、初等教育専攻、中等教育専攻の3専攻において、特別支援学校教諭免許状の希望者は非希望者と比べ理解度が高かった。この結果は、特別支援学校教諭免許状を希望している学生が着実に発達障害に関する知識を身につけていることを示している。

一方、特別支援学校教諭免許状を希望しない非希望者の発達障害の基礎知識は、各専攻とも平均5点台と低い結果となった。従って、特別支援教育に関心のない学生に対し、どのように発達障害の基礎知識を定着させるかが今後の課題と考えられる。教員養成課程において必修化されている「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に関する科目を中心に、学部教育の在り方を検討する必要がある。

また専攻毎に分析すると、中等教育専攻の特別支援学校教諭免許状の希望者は少ないものの発達障害に関する知識の得点は高く、反対に初等教育

専攻の特別支援学校教諭免許状の希望者は多いが基礎知識の得点が低い結果であった。本研究ではこのような結果となった理由は明らかにできないが、免許希望者の理解度を促進する授業改善が必要と考えられる。

(4) 発達障害に関する実践的知識の理解度

本研究では、通常学級における自閉症児のパニックへの対応、ADHD児に対する授業や関わり方の工夫、アスペルガー症候群の友人トラブルへの指導について、自由記述で回答を求めた。

その結果、自閉症児のパニックへの対応についてはクールダウンルーム等の活用といった標準的な対応をはじめ、回答の中に複数のカテゴリが見られる等、理解度が高い様子が見られた。またADHD児に対する授業や関わり方の工夫では、ADHDの中核症状である不注意の問題に対応した環境調整や授業の工夫が多く報告された。さらにアスペルガー症候群の友人トラブルへの指導では、アスペルガー症候群の特性を踏まえた状況の整理、一般的反応や対処法の学習等のSSTのような指導内容の報告が見られた。従って、本研究の参加者の発達障害児に対する実践的知識は一定の水準を満たしていると考えられる。

またパニックへの対応と比べ、ADHDやアスペルガー症候群への対応については、一般的な対応とは異なる回答や状況によっては悪手となる回答も多く見られた。パニックへの対応は知的障害のある児童への対応と類似する部分もあるため、知的障害領域の特別支援学校教諭免許状を希望する学生にとってはイメージしやすかった可能性がある。一方、ADHDやアスペルガー症候群への対応についてはより効果的な方法を学習する余地があり、今後のカリキュラム編成や科目のシラバス構成の改善が求められると考えられる。

6. 引用文献

福島久美子・清水寿代. (2016). 大学生の自己・他者受容と発達障害に関する知識が発達障害者に対する態度に与える影響. 幼年教育研究年報, 38, 35-42. <https://doi.org/10.15027/41542>

菊池哲平. (2011). 教育学部学生における発達障害のイメージ: 接触経験・知識との関連. 熊本大学教育実践研究, 28, 57–63.

文部科学省. (2022). 令和4年度通常 of 学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査. https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2022/1421569_00005.htm

R Core Team. (2021). *R: A language and environment for statistical computing*. (4.1) [Software]. <https://cran.r-project.org/>

The jamovi project. (2023). *Jamovi* (2.3) [Software]. [//www.jamovi.org](https://www.jamovi.org).